

3月21日、22日の震災支援視察のご報告

3月21日、第二議員会館より、平山泰朗(衆)と秘書1名、スタッフ1名で、蠟燭10箱を救援物資として積み込み、気仙沼市、陸前高田市を中心に視察をしました。

●気仙沼市

気仙沼市は、副市長と面談、状況を話してもらいました。毎日、災害に関する情報を掲載した有益なペーパーを配布中(添付)で、これを見れば状況は、ほとんど把握できます。

気仙沼市の清涼院という避難所に置いては(別途添付)、電気は自家発電で、電話、携帯はつながらず、ガス、水道もなし、復旧の見通しもない状況にあります。近くの避難民への炊き出しで、毎日300人とのこと。欲しいものは、資料写真に添付いたします。

風聞：深夜に火事場泥棒がでたり、放火をしたりする連中がいる、警察で対処して欲しいとのこと。(伝聞)



市役所



街中



街中



3月21日、22日の震災支援視察のご報告

●清涼院避難所

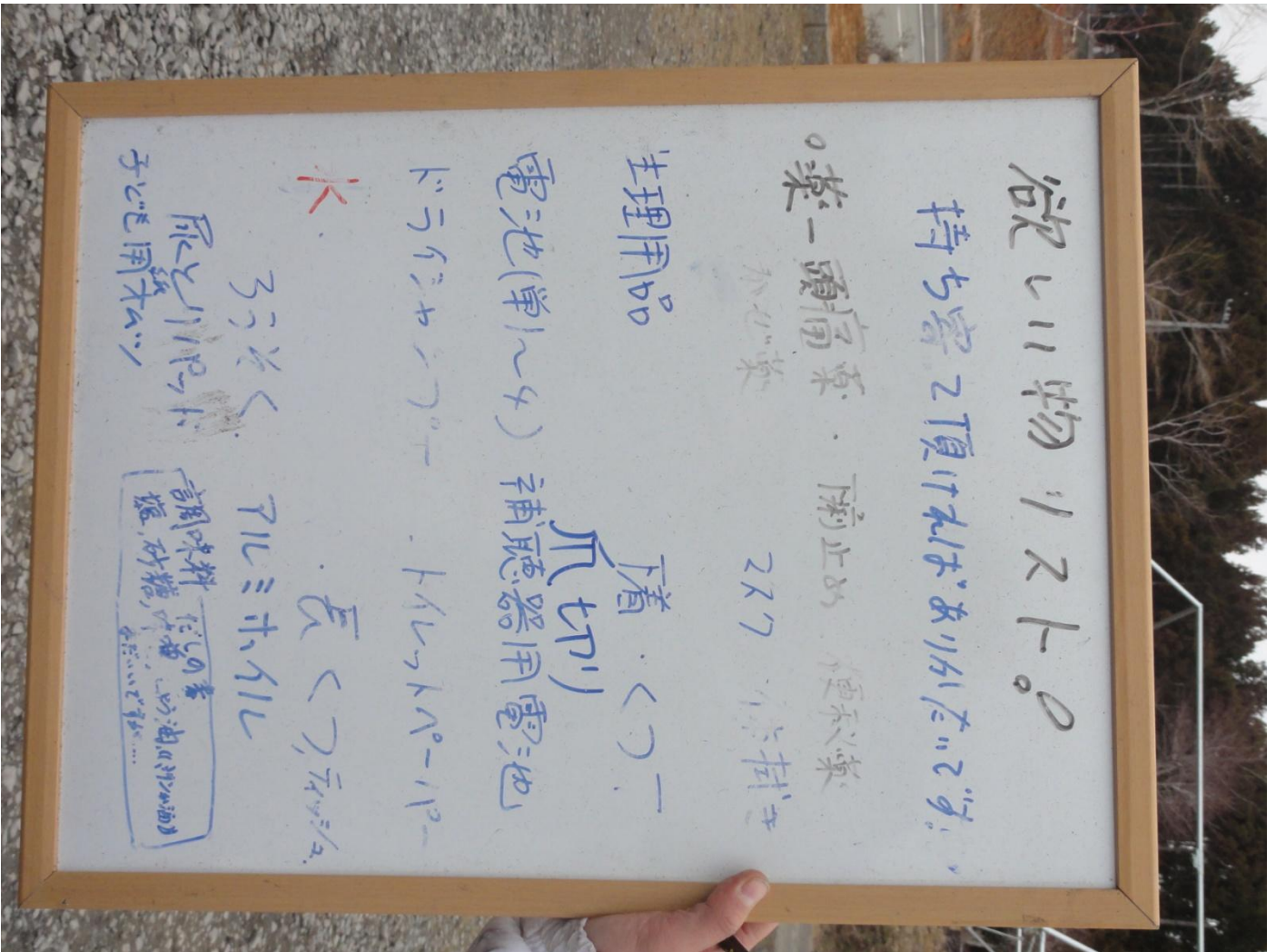
ライフライン分断。携帯、電話、電気、ガス、水道つながらず。市に連絡をしようにも、車が必要。しかしガソリンがない状況。被災者が寺に宿泊、近隣住民が炊き出しを受けにくる状況。(詳細別紙)



清涼院前



住環境



欲しいものリスト(清涼院)

3月21日、22日の震災支援視察のご報告

●陸前高田市

ここでは、陸前高田市対策本部（学校給食センター内）で戸羽太市長と直接話ことができました。市役所は、すべて壊滅し、機能を移転しています。この地域は完全に街機能が壊滅状態にもあります。市職員240名中、80名が死亡。市役所も壊滅していました。ガソリンが必要だけでも、ほぼすべてのガソリンスタンドが壊滅、スタンド機能としての備蓄ができない状況にあるので、早急にガソリンスタンド機能を作ってほしいとのこと。避難所は、日々数の増減があり、ライフラインがないため、炊き出しで人数が増えるとのこと。NTTの災害電話が岩手県から支給されていました。



3月21日、22日の震災支援視察のご報告

街中は、ほとんどの状況が広がっています。



市役所(壊滅)



給食センター (仮庁舎)

●第一中学校避難所

給食センター近くにある1000人規模の避難所。完全に組織化されており、各種状況の資料を頂きましたので、添付します。現在、介護関係のボランティアだけ欲しいとのこと。2人~3人。(平山選挙区内でも対応を考慮中、他手段あれば、教えてください)



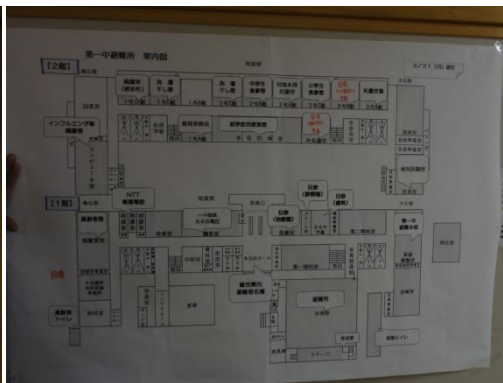
総合受付



救護所



教室内歯科



避難所マップ

3月21日、22日の震災支援視察のご報告



体育館避難所



介護ボランティアの依頼を介護教室で頂く。

棺桶

死者数が多く、棺桶が足りない。1500棺足りない状況。こちらで、確認をしたところ、全日本葬祭業協同組合連合会（略称：全葬連 03-5769-8702）が、すでに、全国業者に関して、被災地域に対して、2万弱を送っているようであり、現在組み立て中とのこと。いまのところ、政府の依頼はない。問題は、御遺体が破損し、腐敗している状況にあり、一刻も早く棺桶に納めたいとのこと。（陸前高田市市長談）

避難所情報の統合

各避難所の連絡先を統合的にまとめられていないために、様々な問題が起きています。行政が担当している避難所も、それぞれの避難所のニーズも把握できていない状況です。また独立系の避難所では、ライフラインもなく、携帯もつながらないため、連絡に車を要している状況です。隣に避難所があっても県境や市境をまたぐことも多く、避難物資などを融通しあうこともできません。政府で一元化し、連絡先情報を管理することで、集中管理できるような仕組みを求めます。（たとえば、すべての避難所に代表電話として衛星電話を配り、電話番号と携帯メールアドレスを管理するような仕組みです）

労災保険の問題

厚労省から介護事業者向けにボランティアの依頼文がファックスされてきたそうです。（原文確認中）前提として、その事業者は、従業員とはかって、ぜひ行きたいらしいのですが、事業所でボランティアを派遣した場合には、労災適用外になるとのこと。この点の見直しを行わないと会社としてボランティアに行かせにくい

3月21日、22日の震災支援視察のご報告

筈だと提案を受けました。ボランティア保険自体は、ありますが、公務員には、この震災対応の場合、給与補償、労災補償があると思いますが、事業者ボランティアは、給与補償もなく、労災もきかないというのは、余りに不平等だという意見を頂きました。

以上。

文章：平山泰朗(衆) TEL: 03-3508-7485 FAX: 03-3508-3365